

「犯罪・非行をした人が立ち直ることができるために考えたもの」

小田原市立城南中学校

三年 加藤 史笑

私がどうして犯罪・非行をした人が立ち直ることができるために考えたのかというと、私の身近には、あまり犯罪は身近にあるとは思えないぐらい平和だと思います。ですが私が身近に感じられなくとも社会では沢山の犯罪が起きています。例に挙げると、殺人、暴行、誘拐、詐欺、SNSを使った犯罪、窃盗など他にも沢山存在し、それが日常的に起きています。日常的に起きている犯罪をすべて無くすことはきっとできません。でも少しでも被害者を減らすこと、被害者を減らすには、加害者が罪を犯してしまうきっかけを減らす

ことが必要だと考えます。まず最近起こっている犯罪では、小さい時の家庭環境の影響で大人になり犯罪を犯してしまったり、人間関係、イジメ、などが犯罪の原因があるようです。さらにSNSの発達が影響で今までより未成年に身近になっていることで良いのか、悪いのか判断ができないことで未成年による犯罪が多発しています。なので罪を犯した人が立ち直ることができるようにするためには、まず一つ目は、幼い子供や未成年の生活環境・家庭環境などを人並みの生活ができるようにすることが大切だと思います。そのために大きなことはできないけど友達などが困っていたりしたら話を聞いてあげたり、大きなことはできないけれどできることはやりたいです。二つ目は、もっと気軽にできる相談ができる場所を作ることです。今も相談できるところはあるけど、私だったら電話や手紙、メールなども良いと思うけれどなんだか相談しづらいなと私は思いました。だから、学生

なら相談があるなど言ってから相談をするみたいだから、先生やスクールカウンセラーと話す機会を作ること家族の話など好きなことなど何でも良いから話すことで犯罪や非行が減るきっかけになるのではないかと思います。大人の人の場合、会社の中で相談ができるように相談所を作ったり上司などまわりの同僚などとコミュニケーションが取られるように場面を作ったり、することで大人の人も相談できるような場所を作ると良いと思った。三つ目は、犯罪や非行をしてしまった人たちを更生できるような機会を作ると良いと思った。理由は、罪を犯した人たちは、更生したい罪を償いたいと思っている人が沢山いると思います。再犯しないように、一人一人機会を作ること再犯の人が減ると思います。たとえば、再犯してしまう人は、仕事が見つからなかったり、他の人からの偏見や差別などがあるからだそうです。仕事は元犯罪を犯した人が働く会社などを専門に作ると良いと思

いました。偏見や差別などは、罪を犯してしまった人たちは再犯しないように思っていたとしても、周りの人が罪のことを言い続けたら、差別があると、再犯しないとがんばっているのに、周りが応援しないと私は、再犯してしまうと思います。だから社会で罪を犯した、前科ということが社会の人たちの偏見や差別につながってると思います。だから社会の人たちが前科があると知ったら偏見を持ったりせず差別をしないで更生を応援するという社会にしていけば再犯を減らせると思います。だから私一人が差別や偏見をしなくても多くのことが変わらなくても、私は私にできる小さなことをやっていきたいです。非行について、家族とのコミュニケーションを増やしたり、インターネットやSNSを適切に使う、悪いことは悪いと教えたり、いろいろあります。だから家族の時間を増やしたり、子供の話を聞いてから親が意見を言ったり、することで非行が減ると思います。私には大

きなことはできないけど友達と話したり、相談を聞いたり、少しのことで良いからしていきたくなって思いました。なので社会から犯罪・非行が無くなることは、きっと無いと思います。だからできるだけ犯罪・非行を減らすために、今まで私が言ったことを実践したら少しでも犯罪・非行が減るんじゃないかと思います。犯罪・非行をしてしまった人でも更生できるよう機会があることで再犯する人が減って、周りの人たちの考え方を少しでも良いから、犯罪・非行をしてしまった人たちへの差別や偏見などを無くすことが私が一番大切だと思います。私にできることは、少ないけど小さなことをやることでいろんな人へ、伝わると思います。